

次世代学術コンテンツ基盤 共同構築事業構築計画に ついて

名古屋工業大学附属図書館

I 機関リポジトリとは① 機関リポジトリとは

名古屋工業大学学術機関リポジトリとは...

名古屋工業大学内で生産された学術情報を
電子的に収集・保存・発信するシステム

学術雑誌掲載論文、紀要論文、
博士論文、科研費報告書、発表資料、
教材、実験データ など

※ メタデータではなく、本文を収集します。

・ 国内では68の大学・研究所が運用中

I 機関リポジトリとは② メリット

■ 研究者にとって

- ・自らの研究成果を世界に向けて、様々なルートを通して発信することができる。

→ 研究成果の**可視性の向上**

- ・研究成果がリポジトリサーバに**永続的に**保存される。

■ 大学にとって

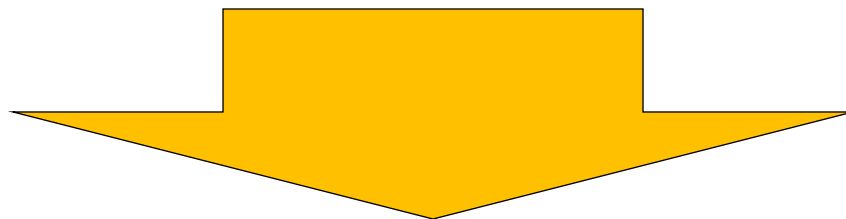
- ・地域社会に対する**説明責任**を果たす。
- ・大学をアピールする。

■ その他にも

- ・新たな学術情報流通ルートの誕生

Ⅱ 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業の
平成19年度委託事業にて名古屋工業大学の
公募提案書が採択され、1,500,000円が
委託されました。



名古屋工業大学学術機関リポジトリの
平成20年3月1日公開を目指す。

Ⅲ 平成19年度構築計画①

	平成19年度	将来
目標	図書館所蔵博士論文・紀要論文のうち、許諾を得た論文の本体収録を目指します。	名古屋工業大学内で生産された学術情報を収集し、発信する。
予算	委託事業にて受け取った150万円を使用します。	平成20年度の同事業公募でも予算獲得を目指します。
収集範囲	図書館所蔵博士論文・紀要論文全てをリストアップし、許諾を得た論文を順次収録する。	<u>名古屋工業大学内で生産された学術情報。</u>

Ⅲ 平成19年度構築計画②

	平成19年度	将来
著作権	博士論文・紀要論文を収録するので、著作権処理は本人からの許諾が中心となる。紀要については、紀要を管理している総務部企画課などと話をしています。	共著者や他の著作権者(図表など)からの許諾は著者が行い、雑誌社との著作権の確認は図書館が行います。
<u>システム</u>	システムは情報基盤システムの一部としてレンタル済みである。	平成24年2月までシステムはレンタルされる。

Ⅲ 平成19年度構築計画③

	平成19年度	将来
登録	<p>①図書館所蔵博士論文・紀要論文全てをリストアップし、著作者から著作権の許諾を得る。</p> <p>②許諾を得た論文を外注などによりPDF化する。</p> <p>③メタデータを付与してリポジトリに登録する。</p>	登録作業は図書館が行う。
統計	増加登録件数の記録。	アクセスログ・ダウンロード数の統計を記録する。

ご協力よろしくお願いいたします。